

第 2 章 スポーツをとりまく現状と課題

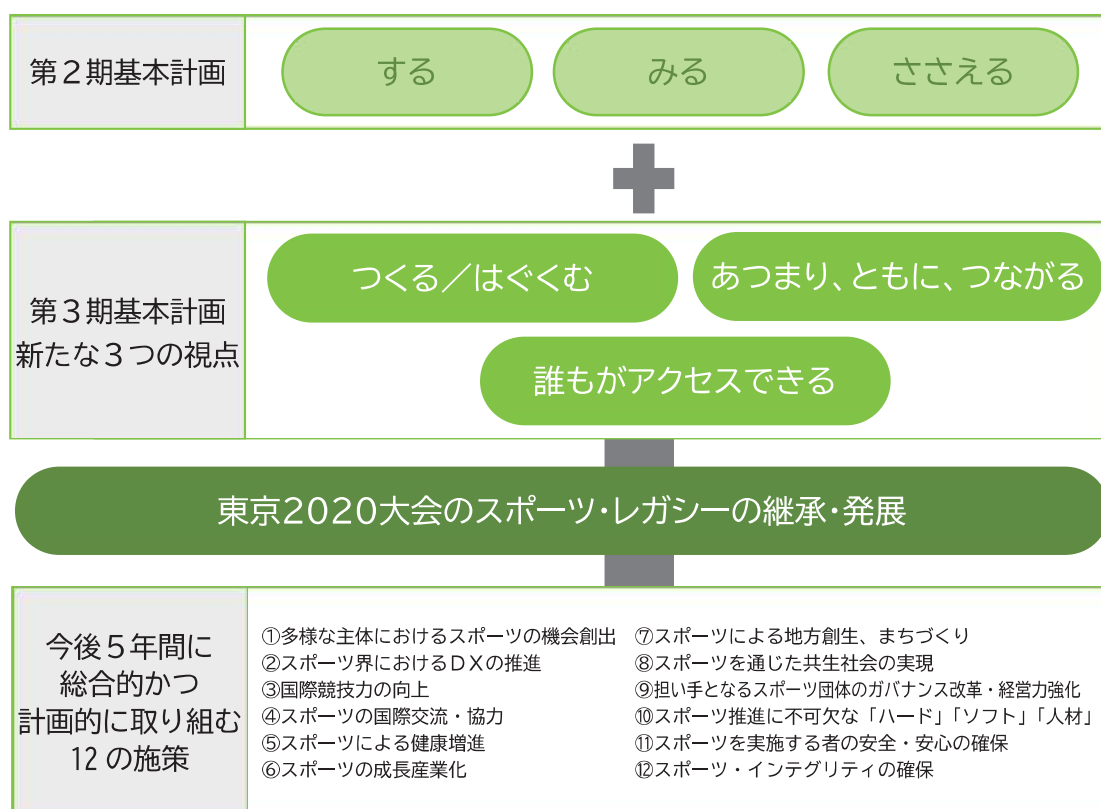
1 | 計画策定の考え方

(1) 国の動向

国では、令和4年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。第2期計画の「中長期的なスポーツ政策の基本方針」を踏襲しつつ、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」という3つの新たな視点を加えるとともに、東京2020大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けた総合的かつ計画的に取り組む12の施策が示されています。

また、同計画の中ではスポーツ実施率について、成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%程度、障害者は40%程度を目指すことを目標に掲げています。

<第3期スポーツ基本計画の全体像>



出典：スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画」より作成

(2) 東京都の動向

東京都では、本計画と同じく令和7年3月に「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」が策定されました。

スポーツをとりまく環境変化やスポーツの意義・価値を捉え、「誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイング※を高め、社会を変革する」を基本理念とし、将来目指す「世界に誇るスポーツフィールド・東京」の姿を4つのビジョンとして設定しています。また、政策の柱として「スポーツで輝く」、「スポーツでつながる」、「スポーツでにぎわう」、「スポーツを支える」が示されており、都民一人ひとりのウェルビーイングの向上と、社会全体の幸福度の最大化を実現することを目指す計画となっています。

<(次期)東京都スポーツ推進総合計画の全体像>

基本理念	誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイングを高め、社会を変革する			
将来のビジョン	ビジョンⅠ	ビジョンⅡ	ビジョンⅢ	ビジョンⅣ
	子供の頃から好きなスポーツと出会い、楽しみ、成長し、健康・幸福に生きている	スポーツを通じた新たなつながりと相互理解が、技術の進展に伴い生み出されている	世界中のアスリートや観客でにぎわい、世界で最も魅力的で選ばれる都市に	安全・安心・信頼の下、いつでもスポーツを楽しめる社会が実現
4つの政策の柱	健康・幸福	共生社会	地域・経済活性化	スポーツの持続可能性
	スポーツで 輝く	スポーツで つながる	スポーツで にぎわう	スポーツを 支える
	施策① スポーツに触れる「はじめの一歩」を後押し 施策② ライフステージに応じたスポーツを推進 施策③ 東京にゆかりのあるアスリートが躍動	施策① パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く 施策② バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進 施策③ 多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる	施策① 都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス 施策② 住み慣れた地域でのスポーツをサポート 施策③ スポーツの魅力を発信し、スポーツを通して感動を味わう	施策① 様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営 施策② 多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く 施策③ 安心・安全なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現

出典：東京都「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめ<概要版>」より作成

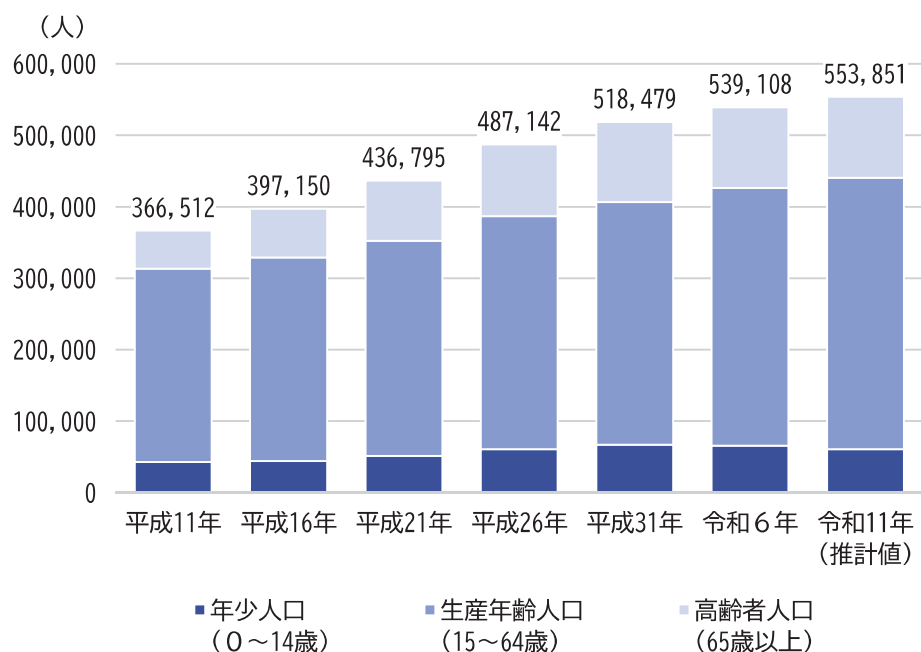
※ ウェルビーイング：心身ともに健康で、社会的にも満たされた状態にあること

2 | スポーツをとりまく区の動向

(1) 人口推移と将来人口推計

江東区の人口は増加傾向にあり、この25年間で約17万人の増となっています。

今後も人口増加は継続し、令和11年の将来推計人口は55万人を超えることが見込まれています。



出典：住民基本台帳人口（各年1月1日現在）※令和6年まで
江東区長期計画 ※令和11年

(2) 江東区長期計画（令和2年度～11年度）

江東区長期計画とは、区のまちづくりと区政運営の具体的指針となるものであり、この計画に基づいて様々な施策を推進しています。同計画の中で、区のスポーツ振興に関する施策の方向性を定めています。

大綱3 区民の力で築く元気に輝くまち 施策14 スポーツを楽しめる環境の充実

目指す姿

こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、身近にスポーツを楽しむ機会と環境が確保され、スポーツの持つ力により、誰もが生き生きと暮らせる地域社会が形成されています。

取組方針

1. 区民のスポーツ活動の促進

- こどもから高齢者まで世代や障害の有無にかかわらず、区民がスポーツ活動を楽しめるよう、スポーツイベントやスポーツ教室の開催など、スポーツに親しむきっかけづくりを推進します。
- 障害者スポーツに対する理解促進を図り、障害者のスポーツ活動を促進します。
- スポーツ団体との連携を図るとともに、区民がスポーツ観戦等スポーツと多様な関わりができるよう、取り組みます。
- ソフト面における東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用し、区民のスポーツに対する意識向上を図ります。

2. スポーツをしやすい環境の整備

- 区立スポーツ施設や設備の充実、利便性の向上を図り、誰もがスポーツをしやすい環境整備に取り組みます。
- ハード面のレガシーである東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場等の都立スポーツ施設等と連携するとともに、各施設の有効活用を図ります。

3 | 区内の主なスポーツ施設



■ 区立スポーツ施設 ■ スポーツが楽しめる主な公園・スポーツ施設



※複合施設については主な施設2つを掲載しています。

4 | 区民のスポーツ活動の実態

(1) 成人のスポーツ活動について

I. アンケート実施概要

■区民アンケート

調査対象	区内在住の18歳以上の男女2,500名（無作為抽出）
調査期間	令和6年6月12日～7月12日
調査方法	郵送による配布、郵送および電子回答
周 知	区報（6月11日号）・区ホームページにて周知
回 収 数	880票（うちオンライン回答：422票）、35.2%
調査項目	・スポーツ実施状況について ・今後やりたいスポーツ・運動について ・地域スポーツ振興について ・パラスポーツ（障害者スポーツ）について ・スポーツ・運動に関するボランティアについて ・スポーツ・運動に関する情報について ・トップスポーツチーム連携協定団体について ・学校部活動の地域移行について ・今後のスポーツ振興・推進について

■障害のある方のアンケート

調査対象	区内在住の障害のある18歳以上の男女（挙手制）
調査期間	令和6年6月12日～7月12日
調査方法	電子回答
周 知	区報（6月11日号）・区ホームページでの周知に加え、区内障害者通所支援施設・障害者施策課窓口にて周知チラシ配布
回 収 数	125票
調査項目	・障害のある方のスポーツ実施状況について ・障害のある方の今後やりたいスポーツ・運動について

Ⅱ. アンケート結果(抜粋)

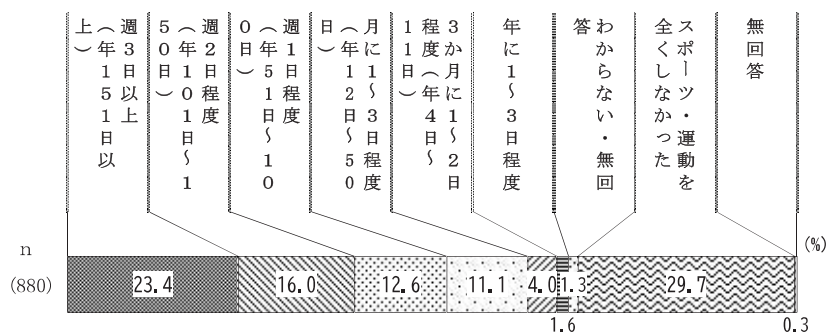
①区民のスポーツ実施率について【「する」スポーツ】

令和6年度に実施した「スポーツ推進に関するアンケート調査」において、運動不足を感じている（「どちらかといえば運動不足を感じている」もしくは「運動不足を感じている」）と回答した区民の割合は7割を超えています。

また、成人の週1日以上スポーツ実施率は52.0%となっており、令和元年度の調査（43.5%）より8.5ポイント増加しました。一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」と回答した区民の割合は全体の約3割となっています。

性・年齢別に週1日以上スポーツ実施率をみると、男女とも全体では5割を超えており、男性10～20歳代、70～79歳、女性70歳以上で6割を超えています。一方、男女とも30～40歳代でスポーツ実施率が低く、特に女性30歳代では3割未満となっています。

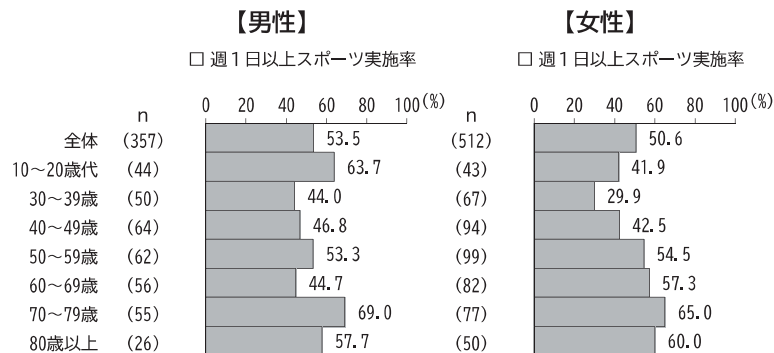
<スポーツ・運動の実施頻度>



参考

国 : 52.0% ※20歳以上（スポーツ庁「令和5年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」）
東京都 : 66.3% ※18歳以上（東京都「令和5年度 都民のスポーツ活動に関する実態調査」）

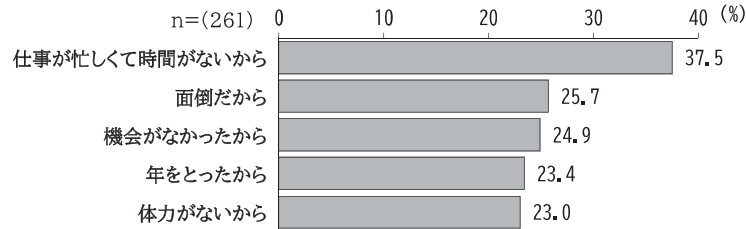
<スポーツ・運動の実施頻度(性・年齢別)>



第2章 スポーツをとりまく現状と課題

スポーツ・運動をしなかった理由は、「仕事が忙しくて時間がないから」が37.5%と最も多く、次いで「面倒だから」が25.7%、「機会がなかったから」が24.9%となっています。

<スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)>



②障害者のスポーツ実施率について【「する」スポーツ】

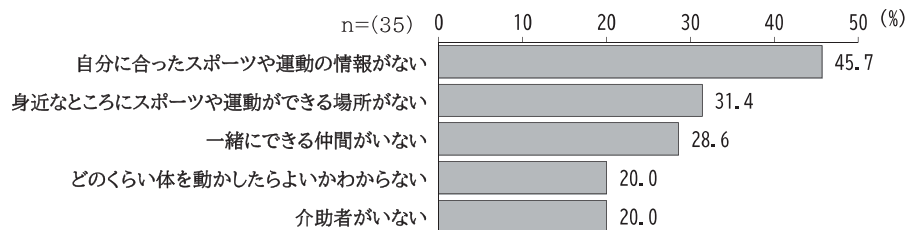
障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっている一方で、「スポーツ・運動を全くしなかった」は28.0%となっています。

<スポーツ・運動の実施頻度(障害者)>



スポーツ・運動をしなかった理由は、「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」が45.7%と最も多く、次いで「身近なところにスポーツや運動ができる場所がない」が31.4%、「一緒にできる仲間がいない」が28.6%となっています。

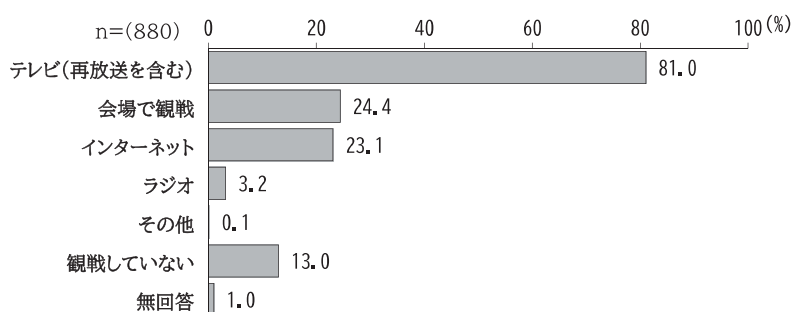
<スポーツ・運動をしなかった理由(上位5項目)>



③スポーツの観戦状況について【「みる」スポーツ】

この1年間で、何かしらの形でスポーツを「みた」と回答した割合は 86.0%となっています。そのうち、「テレビ（再放送を含む）」が 81.0%と最も多く、次いで「会場で観戦」が 24.4%となっています。

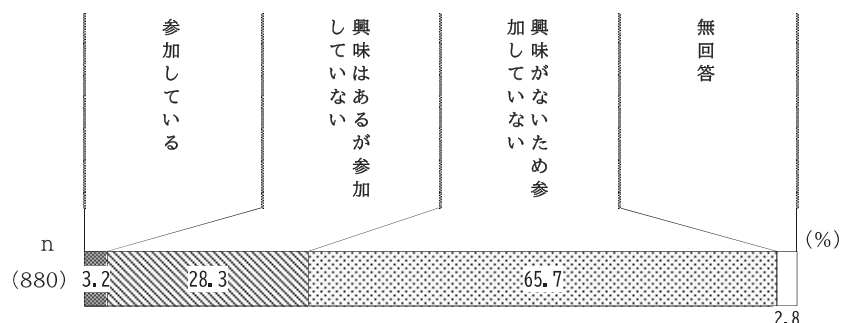
<1年間のスポーツ観戦の有無>



④スポーツ・運動に関するボランティアについて【「ささえる」スポーツ】

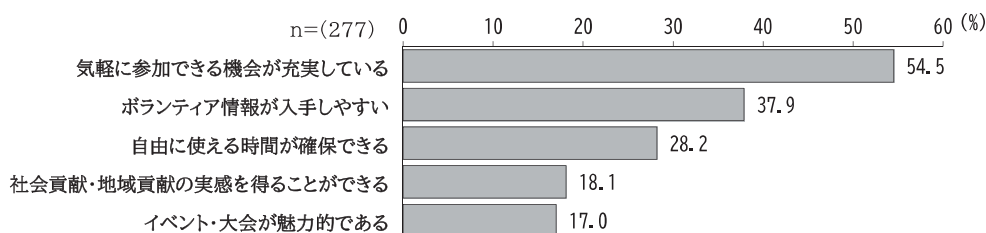
スポーツ・運動に関するボランティアに関心がある（「参加している」もしくは「興味はあるが参加していない」）と回答した区民の割合は 31.5%となっています。

<スポーツ・運動に関するボランティアの参加状況>



ボランティアに関心があると回答した人に、ボランティアをするために重要なことを聞いたところ、「気軽に参加できる機会が充実している」が 54.5%と最も多く、次いで「ボランティア情報が入手しやすい」が 37.9%となっています。

<スポーツ・運動に関するボランティアをするために重要なこと(上位5項目)>



(2) こどものスポーツ活動について

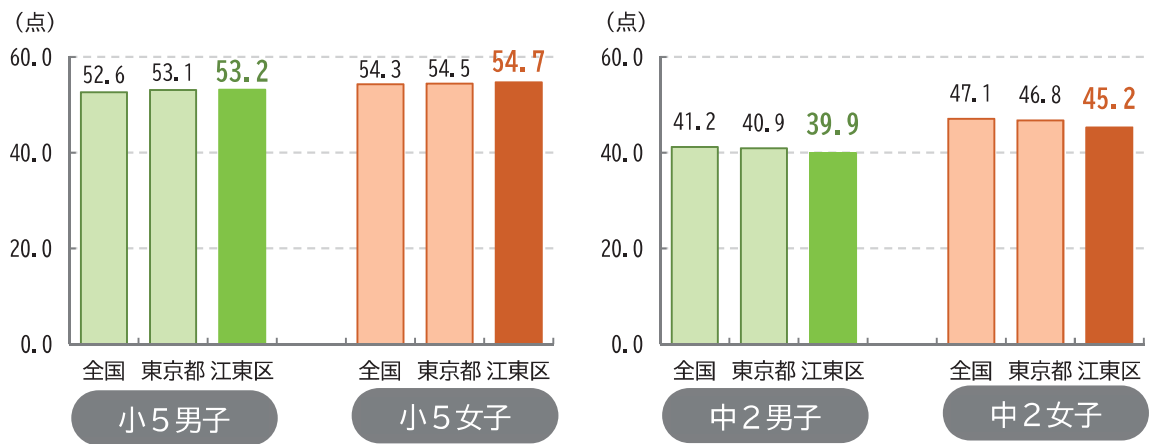
①こどもの体力・運動能力

こどもの体力・運動能力の現状把握を目的に、国では「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」、東京都教育委員会では「東京都統一体力テスト」を実施しています。

令和5年度の体力合計点※をみると、江東区の小学校5年生は男女とも全国および東京都と同水準となっています。一方で、中学校2年生は男女とも全国および東京都よりもやや低くなっています。

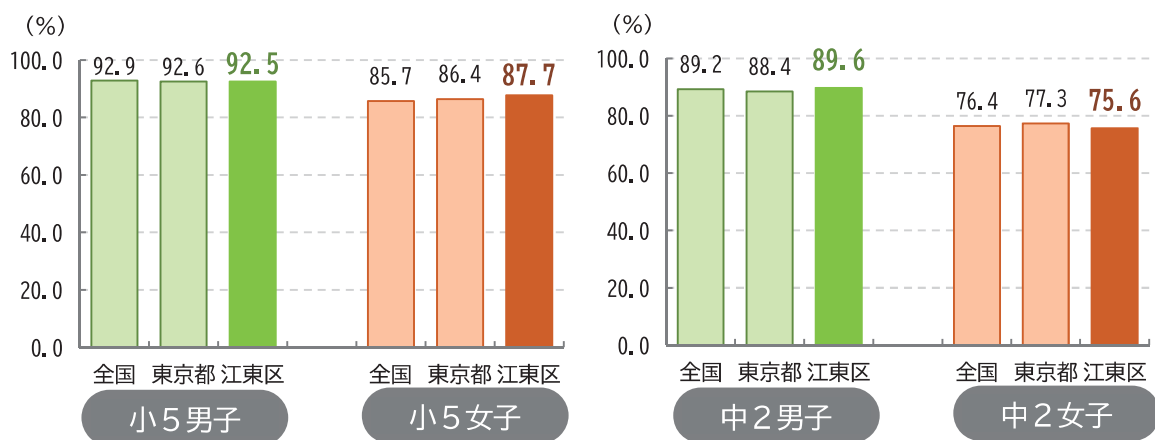
また、運動やスポーツをすることが好き（「好き」もしくは「やや好き」）と回答した割合は、小学校5年生男子は全国および東京都と同水準となっていますが、小学校5年生女子、中学校2年生男子はやや高く、中学校2年生女子はやや低くなっています。

<体力合計点の平均点>



出典：スポーツ庁「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
東京都教育委員会「令和5年度 東京都統一体力テスト」

<運動やスポーツをすることが好き>



出典：スポーツ庁「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
東京都教育委員会「令和5年度 東京都統一体力テスト」

※ 体力合計点：50m走や上体起こしなど、実技テスト項目（8種目）における得点の合計

②こどもへのアンケート調査結果

令和6年5月、区内在住の小・中学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査対象	区内在住の小・中学生
調査期間	令和6年5月18日～5月31日
調査方法	こどもまつり、各スポーツセンターにて配布
回収数	851票
調査項目	スポーツに関する自由意見

【スポーツに関する自由意見(抜粋)】

■スポーツをする場所について

- ・遊具を増やしてほしい
- ・ドッジボールの出来る児童館とかが近くに出来れば良いと思う
- ・ボールを使える公園が増えてほしい
- ・色々なスポーツができる場所ができてほしい
- ・キックボード・ブレイブボードができる場所を作ってほしい

■スポーツに触れる機会について

- ・学校でもっとスポーツ・運動をする時間が増えてほしい
- ・こどもが無料で野球などを見られる機会を作ってほしい
- ・トップスポーツ選手を呼んでなにかしてほしい
- ・小学生・こども向け講座を増やしてほしい

■その他

- ・皆が仲良くルールを守れば、もっとスポーツが楽しくなると思う
- ・ドッジボールを「やりたい」と言ったら、男子に「女子にボールが投げられるかな」と笑われて悲しかった。そういったことを無くしたい
- ・何かとコラボすれば、みんながもっとスポーツを好きになると思う



▲こどもまつりでの様子▲

(3) 区内のスポーツ関係団体等の活動について

■ヒアリング実施概要

調査対象	スポーツ推進に関連する活動・事業を行っている組織 12 団体
調査期間	令和6年10月16日～10月29日
調査方法	対面、オンラインまたは電話でのヒアリング
調査項目	・ 団体、組織について ・ 他の団体等との連携・取り組み状況について ・ 団体におけるスポーツ振興に関する課題について ・ 区のスポーツ振興にとって重要なこと（要望や施策に対する意見）

■調査結果(概要)

団体におけるスポーツ振興に関する課題について	
人材確保・育成	・ 職員・スタッフ等の確保 ・ 指導員やボランティアの確保・育成・技術力向上
団体の運営	・ 活動資金、運営資金、スポンサー等の安定的確保 ・ 活動回数・内容の充実、新規事業の企画
活動場所	・ 活動場所の確保、予約が取りづらい、急に使えなくなる ・ 障害者スポーツの団体に対する施設使用料の減免
トップスポーツチーム	・ 集客の安定化 ・ チームの認知度向上
その他	・ 障害者の施設利用時に、地域に迷惑がかからないよう悩む

区のスポーツ振興にとって重要なこと（要望や施策に対する意見）	
団体の運営	・ 委員の高齢化による活動縮小を防ぐため、若い世代の参加を促す対策を支援してほしい ・ 地域スポーツクラブは会費で運営しているため、区からの補助があると良い
活動場所	・ 活動場所の確保が難しいため、地域スポーツ団体は施設を優先利用できるとよい ・ 障害者スポーツ団体は優先的に施設を使えるようにしてほしい
施設の整備および維持管理	・ 区立スポーツ施設の改修を計画的にしてほしい ・ オリパラレガシー施設を、気軽に活用できるようにしてほしい
パラスポーツ・障害者のスポーツ	・ 施設のバリアフリー化に取り組んでほしい ・ パラスポーツに対して、積極的な取組を進めてほしい
情報発信	・ 区のスポーツ情報を、区民にわかりやすく、広範囲に伝えてほしい ・ 各スポーツ施設への交通アクセスを区民にわかりやすく伝えてほしい
区・地域団体等との連携	・ 地域や企業など、いろいろな主体を巻き込んで地域が盛り上がる事業を実施してほしい ・ 区としてスポーツをもっと盛り上げてほしい
その他	・ 「部活動の地域移行」への対応

5 | 区のスポーツをとりまく課題と対応

区民アンケート等の基礎調査結果をもとに、今後のスポーツ施策の課題および対応について、以下のとおりまとめました。

スポーツの実施状況

- 成人の週1日以上スポーツ実施率は全体で52.0%となっており、国と同水準で東京都よりも低い傾向となっています。また、今後もスポーツ・運動を継続したい、またはきっかけがあれば始めたいと考えている人は約9割となっていることから、ライフスタイルや年齢等に関わらず、すべての区民がスポーツに親しむ環境の構築が必要です。
- この1年間にスポーツ・運動を全くしなかったと回答した人は全体の3割程度となっています。仕事が忙しくて時間がないといった回答が多かったことから、仕事や家事・育児で忙しい中でも、気軽に安心してスポーツに取り組める場や機会の提供が重要です。
- 70歳以上の週1日以上スポーツ実施率は6割台と高く、また、運動不足を感じる割合も若年層に比べて低くなっています。健康や生きがいづくりなどの観点からも、高齢者向け事業の継続が必要です。
- スポーツ庁が実施した「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、全国的に運動やスポーツをすることが好きなこどもは総運動時間が長く、体力合計点が高い傾向にあります。スポーツが好きだということの意識を育むことで、体力の向上を目指すことが重要です。

パラスポーツ・障害者のスポーツ

- 障害者の週1日以上スポーツ実施率は48.8%となっています。障害者がスポーツに親しみ、楽しむことができる環境が必要です。
- 障害者がスポーツをしない理由として「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」という回答が多いことから、スポーツや運動に関する情報発信の充実が必要です。
- パラスポーツに関心がない人が半数以上であることから、区民のパラスポーツに対する興味・関心を向上させるための取り組みが必要です。
- 障害者のスポーツ団体が優先的に施設利用できる運用方法について、検討が必要です。
- 施設のバリアフリー化など、障害の有無に関わらず、誰もが気軽にスポーツに親しむことのできる環境の整備が必要です。

スポーツ実施環境

- スポーツ・運動の実施場所は道路・共用スペースが多く挙げられており、またスポーツ・運動を始めるためのきっかけとして「気軽にスポーツ・運動ができる施設や環境」、今後推進すべき施策として「公共スポーツ施設の整備・充実」、「公園等の生活に身近な場のスポーツ・運動の環境整備」が挙げられています。公共の場で安全にスポーツをすることができる環境の充実が必要です。

スポーツ観戦

- スポーツを何かしらの形で観戦した割合は8割台となっています。引き続き、スポーツ観戦に対する区民の関心喚起を図る取り組みが必要です。

トップスポーツチーム

- 区内を拠点とするトップスポーツチームをいずれも「知らない」と回答する区民が7割以上と、認知度がやや低い状況となっています。ホームゲームへの区民招待や、区内小・中学校への出前講座など、区民がトップスポーツチームをより身近に感じることができるような取り組みが必要です。

情報発信

- 「こうとう区報」やインターネットを用いてスポーツ・運動に関する情報を入手する人が多いことから、紙面、WEB等を活用してより多くの区民に効果的に情報を提供していくことが重要です。

ボランティア

- 全体のうち3割の区民が、スポーツ・運動に関するボランティアに興味があると回答していますが、男女とも年齢が若いほどボランティアに興味がないと回答しています。気軽にボランティアに参加できるような仕組みづくりや、情報提供の充実、また興味・関心を向上させるための取り組みが必要です。

スポーツ・運動の指導者

- スポーツ・運動の楽しみ方を指導し、興味・関心を向上させるような指導者、健康・体力づくりの指導ができる指導者の育成が必要です。